

平成29年度第2回柏市子ども・子育て会議 資料への意見事前聴取書
 子ども・子育て会議委員の意見まとめ

資料1 平成28年度進行管理報告書「主な事業の進行管理報告書」への御意見

ページ	事業名	御意見
1、2	地域子育て支援事業	全体として計画より実績が下回っているが、最も身近な場所であり、あることで安心感が持てる訳で、子育て当事者だけでなく地域の「おらが拠点」になるよう引き続き計画に沿った整備と広報を継続すべきである。はぐはぐ沼南の例のごとく、PRと内容次第で利用者は増加し、親しみが持たれよう。
3、4	支援団体のネットワーク構築	ネットワークの姿を見える形にし、その上で有志を糾合して動き出す時期にきていると認識している。行政はこれをどうファシリテートしていくかである。
5、6	乳児家庭全戸訪問事業	切れ目のない支援の重要なポイントであり、児童福祉法の改正を受けて、今後の取組・課題に記載の施策を腰を据えて進めていただきたい。
7、8	病児・病後児保育事業	需要増大傾向を十分踏まえる必要がある。地区のバランスも必要。
13、14	放課後児童健全育成事業	(前回の子ども子育て会議で議論のあったように)、中期的に喫緊の重要課題として、事業のあり方の検討も進め、量質の充実を推進すべきである。
14	放課後健全育成事業	「学校は好きだけど、ルームが嫌だ。」等ルームの人数、ルームでの質での問題も多いように思います。整備と共に安心して預けられる状況を考えていって欲しいと思います。
14	教育・保育の質の確保・向上	(認定)こども園・保育園を増やしていきたいという市の考えはわかるのですが、幼稚園でも場所により定員を超えて募集がある園などさまざまある様に思います。管轄等の違いはあると思いますが、柏市の子ども達を見てもらうという意味では、同じように支援されているのではないかと思います。

資料1 平成28年度進行管理報告書「施策からの点検報告書」への御意見

ページ	施策名	御意見
17	1-(1) 子育て・親育ちの環境づくり	はぐはぐひろば沼南が順調にスタートしたことは大変喜ばしい。ペアレント・プログラム、BPプログラムについては、新施策の展開として評価できるが、実施状況の報告をお願いしたい。
17	1-(1) 子育て・親育ちの環境づくり	はぐはぐ仲間ミーティング2017は時間的制約もあり、詰め切らなかった面もあるが、3グループの提案（ネットワーク、情報提供、子どもの参画）には新鮮なものがあり、活かせるものは今後の活動に活かして行くべきである。
17	1-(1) 子育て・親育ちの環境づくり	地域の面としての子育て力の強化には、行政と民間との有機的連携が求められるのは、18頁の多世代交流を含め、記載のとおりで、そのためにも、ネットワークの構築が求められる。
18	1-(2) 子育て支援ネットワークの構築	（前掲ネットワークの姿が見える形にし、その上で有志を糾合して動き出す時期にきていると認識している。行政はこれをどうファシリテートしていくかである）多世代交流の動き、こども食堂の動きなどは、地域の子育て力の向上に寄与するものと思われる。
18	1-(2) 子育て支援ネットワークの構築	それとは別のアプローチとして、妊娠子育て相談センター、利用者支援事業等が動き出すのに伴い、こうした事業と地域資源とのネットワークをどう考え構築していくのか、整理検討しておくべきではないか。
19	1-(3) ワーク・ライフ・バランスの推進	新企業表彰制度には、大いに期待したい。WLBの推進だけでなく、表彰企業をテコに、子育て支援の輪に企業を導くきっかけとなり、連携した活動に結びついて行くものと期待される。いずれにせよ、表彰活動、表彰事例を市民によくPRしてほしい。
20	2-(1) 情報提供・相談体制の充実	着実に充実が図られてきている。転入時の提供、LINEの活用などは効果的と思われる。展開されつつある妊娠子育て相談センター、利用者支援事業の実施状況は、いずれ子ども子育て会議等で報告をお願いしたい。
21	2-(2) 子育て家庭の負担の軽減	病児保育の開設は大きな進展である。一時預かりは、潜在的虐待リスクの軽減にも寄与するので、需要に合わせて使い勝手のいい事業に工夫を継続すべきである。
21	2-(2) 子育て家庭の負担軽減	病児・病後児まで施設かと嫌な気持ちになりますが、社会のニーズに対応せねばの策と理解します。しかし、子ども本人の気持ち（辛い・しんどい・不安・甘えたい・愛されたい）そんな心の声を受けとめて欲しいです。また、病から治っていく過程をきちんと把握できる親になってほしいです。大切な事をきちんと伝えられる充実した形を望みます。そして、社会全体として、もう一回休める（大変ですが）社会づくりはできないものでしょうか？

22	2- (3) 児童虐待の防止	児童福祉法の改正に伴う事業を含め、記載の事業展開に異存ないが、子育て基盤の問題として、ニーズ調査にある「61%の子育て世帯が小さな子どもにふれあった経験がない」状況に目を向けるべきであり、対応の一つとして、中学校における赤ちゃんふれあい事業の全校での実施や地域子育て支援拠点での小中高大生のボランティア活動の導入等に積極的に取り組んでいただきたい。
22	2- (3) 児童虐待の防止	連日虐待のニュースが流れている現状です。子どもを産み・育て・自立した大人にするという大イベントが人間として喜び、自身への成長にもつながるといことが実感できる“しくみ”は何か？と考えます。地域の人々も巻き込んでの強化対策をお願いします。
23	2- (4) 障害のある子どもへの支援	育ちにくい子が増えている現実。早期に気づいて家庭・社会が共にその子が行きやすい環境を整えられるかが求められています。具体的支援をどのように行うか、などの情報をより深めてほしいです。
25	3- (1) 教育・保育の計画的整備	予想以上の需要増大を念頭に、引き続きの整備充実が課題。学童にいかない児童が相対的に少なくなる傾向にあるとき、これらの児童の放課後の過ごし方をどう考えていくか検討していくべきではないか。

25	3-(1) 教育 ・保育の計画的 整備	②認定こども園の普及について (認定)こども園の普及は、大切かと思いますが、どの幼稚園も(認定)こども園になれるのか疑問を感じる場所があります。施設の大きさや保育士の確保や教育の質などをおとさずにやっていけるのか…等。幼稚園でも保育園と同じように安心して預けられるように市で援助することで保護者もさまざまな選択肢の中から子どもの預ける場所を考えることができる様に思います。
25	3-(1) 教育 ・保育の計画的 整備	ルームの整備と共にルーム以外の子どもも安心して過ごせる場所も検討していただきたいです。民間、小学校の空き教室、幼稚園などでの卒園児の預かりなど自由に過ごせる場所について検討していただきたいです。

資料2 「計画の見直しを行う項目・事業」への御意見

ページ	項目・事業名	御意見
		事前の御意見はありませんでした。

資料3 「現行計画・実績と見直しの案」への御意見

ページ	項目・事業名	御意見
20	企業主導型保育事業	記載事項に異存ないが、事業の展開状況は情報の得られる範囲で、子ども子育て支援会議等で報告していただくとありがたい。(他の認可外保育施設についても同様)